

## 昭和三年ノ創始ニ係ル實施規程摘要左ノ如シ

## 第三目 爆雷戰鬪投射

## 昭和三年爆雷戰鬪投射實施規程

- 第一條 本規程ハ昭和三年爆雷戰鬪投射實施ニ關スル事項ヲ規定ス
- 第二條 戰鬪投射ノ實施隊及主要研究項目附表ノ如シ
- 第三條 所屬長官(聯合艦隊司令長官ヲ含ム以下同ジ)ハ海軍省教育局長、海軍艦政本部長、海軍水雷學校長ニ協議シ委員中ニ其ノ部下職員(下士官兵ヲ含ム)學生ヲ加フルヲ例トス又海軍軍令部長、海軍大學校長及横須賀海軍工廠長ニ協議シ其ノ部下職員ヲ委員ニ加フルコトヲ得
- 第四條 所屬長官ハ本規程及爆雷投射訓練規則ニ依リ本投射實施ニ關スル計畫ヲ定メ實施約三週間前(期日及場所ニ關シテハ三月上旬頃迄)ニ到達スル如ク之ヲ海軍大臣ニ報告スルト共ニ海軍水雷學校長ニ通報スベシ
- 第五條 所屬長官ハ戰鬪投射實施ニ關スル自己ノ權限内ノ事項ヲ麾下司令官ニ委任スルコトヲ得
- 第六條 投射報告ハ左記ニ依リ處理スルモノトス(略)

(附表)

昭和三年爆雷戦闘投射實施部隊及主要研究項目一覽

投射種類	實施部隊	主要研究項目	記
驅逐隊 (掃海隊) 戦闘投射	第二十一驅逐隊 第一掃海隊	一、編隊航行中ノ爆雷攻撃法 (イ) 攻撃運動法 (ロ) 投射計畫及指揮法 (ハ) 通信法 二、適當ナル爆雷標的並ニ投射指揮要具 三、見張法	一、實裝及擬爆雷ヲ用フルテ例トシ其ノ供給數ガ計畫所要數ニ滿タザルトキハ適宜ノ浮標ヲ用フルコトヲ得 二、第一及最終投射爆雷ハ擬爆雷ヲ用フルモノトス
水雷戦隊 戦闘投射	第二水雷戦隊ニ屬スル 驅逐隊	一、直衛配備中ノ爆雷攻撃法 (イ) 攻撃運動法 (ロ) 投射計畫及指揮法 (ハ) 通信法 二、適當ナル爆雷標的並ニ投射指揮要具 三、見張法	

(備考) 一、本表作成ノ要旨左ノ如シ

- (一) 本年實施セラレタル研究投射ノ成果ニ鑑ミ明年ヨリ戦闘投射ニ進ムルハ可ナルモ其ノ施行範圍ハ遠ニ擴張スルコトナク研究ニ適スル在役諸隊ノ一部ニ止ム
- (二) 戦闘投射ノ主要研究項目ハ略本年ノ研究投射ニ同ジ

昭和四年度戦闘投射ハ左記實施區分表ニ依ル、實施驅逐隊數ヲ多カラシメ研究項目ヲ簡約ナラシタル外概ネ前年度ニ準ゼシム

昭和四年戰團投射實施區分

投射種別	實施部隊	主要研究項目	記事
驅逐隊 戰團投射	第一、第十八、第二十一 第二十六驅逐隊	一、哨戒配備中ニ於ケル爆雷攻撃法 二、適當ナル見張裝置竝ニ見張法	一、標的ハ擬潛望鏡ヲ使用ス
水雷戰隊 戰團投射	第二水雷戰隊 (旗艦ヲ除ク)	一、直衝配備中ニ於ケル爆雷攻撃法 二、適當ナル見張裝置竝ニ見張法	
備考	本表ニ掲グルモノノ外必要ナル研究項目ハ所屬長官ノ定ムル處ニ依ル		

別紙第一

大正十年戰團敷設及戰團掃海實施標準

第一、戰團敷設實施標準

一、敷設ニ關スル事項ニ就テハ左記標準ニ依ルモノトス

基本部	裝雷備數	上甲板搭載機雷數	敷設速力	敷設期間	記事
防備隊	一裝備班 ニ六個	一回ニ敷設シ得ル全數	封密書ニ依ル	十二時間以上	一、防備隊ニ在リテハ使用機雷中(裝備敷設共)三(四)號ハ全數ノ三分一ヲ標準トス 二、敷設艦ニ在リテ充當機雷數上甲板搭載數ニ充タザルトキハ成ルベク多數ヲ使用スルモノトス 三、敷設期間ハ狀況ニ依リ適宜短縮スルコトヲ得
敷設艦	以上				

二、成績審査ノ要素左ノ如シ

(一) 裝備能力 (二) 敷設距離及深度 (三) 無効機雷 (四) 敷設線ノ極度

三、成績審査標準左ノ如シ

各項目毎ニ得點ヲ附與シ採點法ヲ定ム、項目及得點左ノ如シ

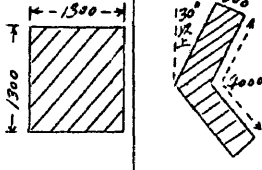
(一) 裝備能力 10、(二) 敷設距離 20、(三) 深度 20、(四) 無効機雷 40、(五) 敷設線 10、

四、無効機雷ノ決定ハ左記ニ依ル

(一) 沈設浮出 (二) 浸水 (三) 爆雷信管ノ不發 (四) 注水信管ノ不發

第二、戰 闘 掃 海 實 施 標 準

一、掃海ニ關スル事項ニ就テハ左記標準ニ依ルモノトス

驅逐隊	防備隊	基本部	規定掃海時間	敷設機雷數	清掃海面	同上深度	準備スベキ掃海具ノ數及種類	記 事
四時間	四時間半					十五呎 乃 至 四十呎	一、二號 各二組	掃海時間ハ「掃海開始」ノ令ヨリ完了ノ報告迄トス
同	依ル	封密書ニ依ル	同	右			一號 二(四)組 二號 二(四)組	

二、掃海實施ノ要領ヲ左ノ通定ム



防備隊ニ在リテハ特別想定指示ノ發動時機ニ至ラバ所定ノ掃海部署ニ就キ作業ヲ開始スルモノトス

設標艦(艇)ハ適宜先發シ指示掃海面ヲ距ル四千米ノ地點ニ至ラバ委員ノ設標開始ニ依リ一側ノ設標ニ從事ス關係委員ハ右整備報告ヲ得バ直ニ設標ノ調査ニ着手スルト共ニ一方掃海面内ノ機雷敷設ヲ行フ

敷設作業中掃海隊ハ掃海面ヲ距ル四千米以上ノ地點ニ適宜待機ス「掃海開始」ハ首席委員之ヲ令シ掃海ノ終期ハ指示掃海面清掃後他側設標ヲ了ヘ司令ノ「掃海完了」ヲ報告セル時機ヲ以テス

掃海具ハ二號ヲ主用一號ヲ副用トシ掃海面ノ約五分ニテ掃海シ終リタル時機ニ至ラバ故障想定ヲ以テ一號掃海具ヲ使用セシム  
驅逐隊ニ在リテハ同時ニ兩側設標ヲ行フ外概ネ前項ニ準シ行動シ「掃海開始」ノ令アラバ掃海面ノ探掃並ニ爾後ノ清掃ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ先ヅ一號掃海具ヲ使用シ二航過ヲ終ラバ令ナクシテ二號掃海具ニ代ヘ清掃ニ移ルモノトス

三、一號掃海ハ二隻編制ノ複式ヲ標準トス

四、一等驅逐艦ニアリテハ適宜掃海索若クハ尾索ヲ附加延長ノ上使用スルコトヲ得

五、掃海中故障ノ爲復舊ノ見込無キモノハ他ノ掃海具ヲ使用スルコトヲ得

六、成績審査標準左ノ如シ

項目及全點ニ依ル(探點法及記事ハ之ヲ略ス)

(一)處分 30、(二)取扱 20、(三)運動法 15、(四)掃海時間 15、(五)設標 20、